



# 台湾の重点発展 スマートマシン



産業



台湾の重点発展産業  
情報セキュリティ

台湾の重点発展産業  
次世代自動車

台湾の重点発展産業  
通信

台湾の重点発展産業  
循環型経済

台湾の重点発展産業  
グリーンエネルギー

台湾の重点発展産業  
バイオメディカル

台湾の重点発展産業  
スマートマシン

台湾の重点発展産業  
半導体

台湾の重点発展産業  
IoT

台湾の重点発展産業  
国際物流及び電子商取引



# 目次

- 02 政策方針—アジア・ハイエンド製造センター
- 06 産業発展の概況
- 13 ビジネスチャンスの創出
- 15 投資奨励措置
- 18 台湾の代表的な企業
- 21 外資系企業の成功事例

## 政策方針—

# 台湾を「アジアハイエンド製造センター」にする

IoT、3D プリント、人工知能 (AI)、ロボット等の技術がもたらした生活と産業の大きな変化、さらに米中貿易戦争と新型コロナウイルス (Covid-19) 感染拡大が引き起こしたグローバル・サプライチェーン再構築の波に対応するとともに、半導体、ICT と機械等の産業の優位性を強化し続けるために、台湾は 2016 年に推進した「スマートマシン産業推進プロジェクト」の延長として 2020 年に「アジアハイエンド製造センター」戦略を打ち出し、5G と AI 応用の導入を加速することで、産業のスマート化、デジタル・トランスフォーメーション、イノベーション応用を促進し、台湾産業のサプライチェーンのスマート化及び産業の生産高の増加といった効果を実現したいと考えています。



## 一 | スマートマシン推進オフィス |

「スマートマシン推進オフィス」は2017年2月に設立され、台湾の精密機械及びICT産業を礎に、「地域との連結」、「未来との連結」、「国際との連結」を推進戦略として、企業のロボット、IoT、ビッグデータ、CPS、リーンマネジメント、3Dプリント、センサー等、スマート化の付加価値要素の導入に協力し、各種ソリューションを徐々に発展させると同時に、重点産業のスマート製造導入に協力し、推進目標である「スマートマシンの産業化」、「産業のスマートマシン化」を達成します。また、「スマートマシン推進オフィス」は、外資系企業が試験エリアや通信プラットフォームに参加すること、台湾でサプライチェーンやパートナーネットワークを確立することなどを支援しています。

### 連絡先 情報

#### スマートマシン推進オフィスサービス窓口

ウェブサイト：<http://www.smartmachinery.tw/page/about/index.aspx?kind=32>

電話番号：04-23598872 #236 會 (Ms.)  
02-27046655 台北オフィス

電子メール：[e10015@mail.pmc.org.tw](mailto:e10015@mail.pmc.org.tw)

所在地：台中市西屯区工業 37 路 27 号 2 楼

## 二 | スマート製造技術の試行運営フィールド |

「スマート製造技術試行運営フィールド」は、全てが国産の試作センターで、100% 国産の高次機械加工設備を採用し、国内で開発製造されたデジタル化生産システムとリンクして機械加工のアプリケーション・サービス・モジュールを発展させており、9種の部品の混合したスマート製造生産ラインを実現しています。当該フィールドは、国内のスマート製造計画センターとして機能し、業界向けに国産化設備のインダストリー 4.0 向けアプリケーションの全貌を展示しています。

2018年9月のオープン以来、ここを訪れた見学者は延べ10,118人を上まわります。15の設備展示エリアが設置され、世界的に有名なシステム・インテグレータ（ダッソー・システムズ、三菱等）も入居しています。専門の支援チームを立ち上げ、23のSI業者を育成するなど、支援成功の事例はすでに110件を超えています。また、自動車・オートバイ、宇宙航空、半導体装置、工作機械など国内の84の業者に協力し、600種を超える試作サービス（歩留まり95%以上）、1,240台の設備のデジタル・トランスフォーメーションを完了し、投資額が29.5億台湾元以上に達しました。

### 連絡先 情報

#### スマート製造技術試行運営エリア窓口

ウェブサイト：<http://www.impps.org.tw/contact/>

電話番号：04-23597116 #843 陳湘婷業務経理

所在地：台中精密機械パーク（台中市南屯区精科東路2号）



### 三 | スマートマシン・パーク |

産業の特性、需要、精密機械企業の集積地などに合わせて、台中市政府は台中の豊洲科技工業パークの内部を拡張し、豊洲科技工業パークの二期を「スマートマシン・パーク」として設立しており、台中市の伝統産業をモデルチェンジさせると共に、中部サイエンスパークにおけるサポーターディングインダストリーの発展を促進しています。パーク面積は 55.86 ヘクタールで、業者 100 を収容し、約 8,540 の雇用機会を創造し、年間生産高が約 270 億元に達する見込みです。

#### 連絡先 情報

#### 台中市豊洲テクノロジー工業パーク

ウェブサイト：<https://fc.mw.com.tw/index.php>

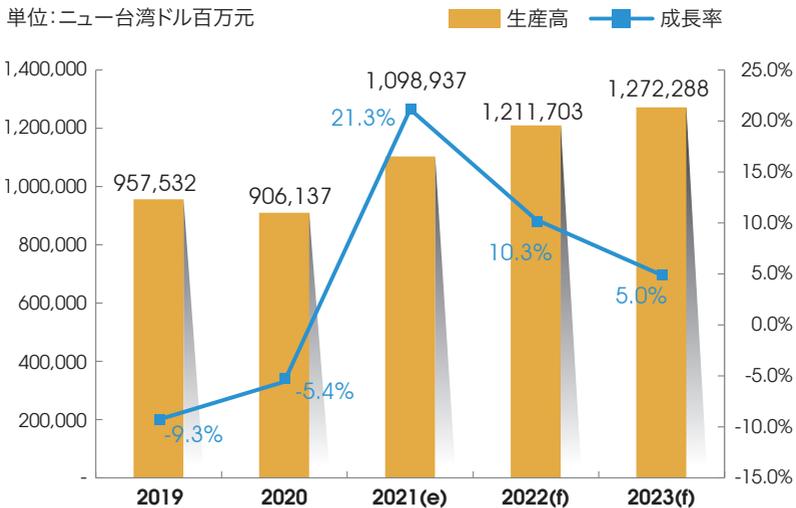
電話番号：04-25151700

所在地：台中市神岡区豊工路 801 号

# 産業発展の概況

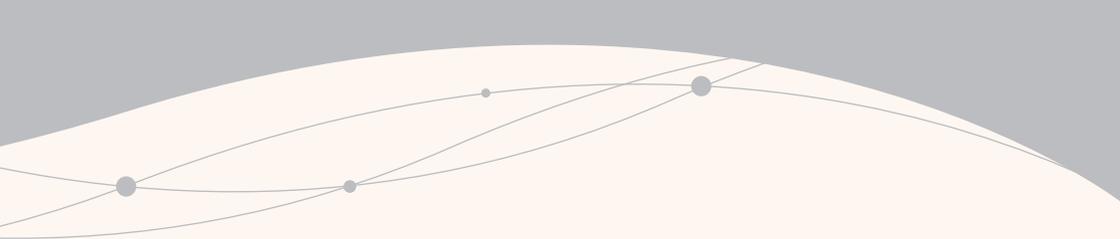
## 一 | 生産高の規模 |

機械産業は重要な基盤産業であり、台湾産業の高度化を舞台裏で支える役割を長期にわたって担っています。近年、機械業界はスマート化、デジタル化によるデータ付加価値サービスの台頭を背景に、業界の発展が大いに期待されています。2017年には、台湾における機械産業の生産高は、半導体、パネル産業に次ぐ3位となっています。



出典：工業技術研究院産業テクノロジー国際戦略発展所。

図1 2019-2023年の台湾機械産業における生産高の概況及び予測



工業技術研究院産業テクノロジー国際戦略発展所の資料によると、2019年は米中貿易摩擦の激化と産業機械の需要量の大幅減少により、生産高が2018年比9.3%減の9,575.32兆台湾元に減少しました。2020年は、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大や米中の貿易戦争・ハイテク戦争の余波などから、機械設備の需要は減少を続け、生産高は9,061.37億台湾元まで落ち込みました。新型コロナウイルス感染拡大が徐々に減速し、各国がサプライチェーンのレジリエンスをこれまで以上に重視する中、機械製造デジタル化市場のビジネスチャンスが生まれ、2022年は生産高が新型コロナウイルス感染拡大前のレベルに回復し、1.2兆台湾元の規模に達する見込みです（図1）。

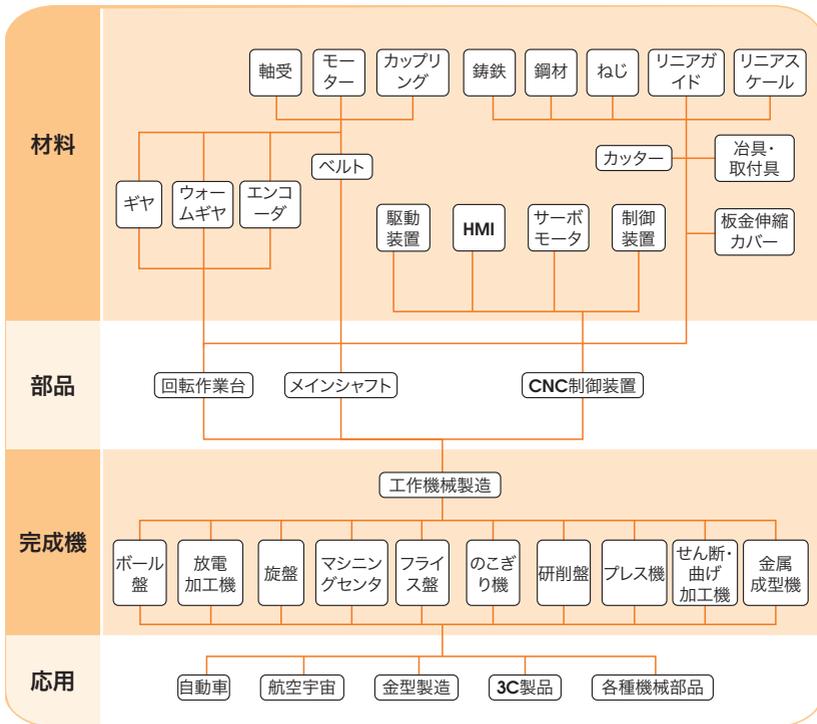
なお、台湾工作機械・構成部品工業同業組合（TMBA）の発表したデータによると、2021年の台湾の工作機械の輸出総額は27.8億米ドルで、2020年の21.5億米ドルに比べ、29.1%成長しました。主要輸出先は順に中国（香港を含む）、米国、トルコ、ロシア及びベトナム等の国で、輸出額の合計は約16.8億米ドル、輸出総額の60.4%を占めています。<sup>1</sup>

---

<sup>1</sup> [http://www.maonline.com.tw/market\\_inside.php?i=312](http://www.maonline.com.tw/market_inside.php?i=312)。

## 二 | サプライチェーン |

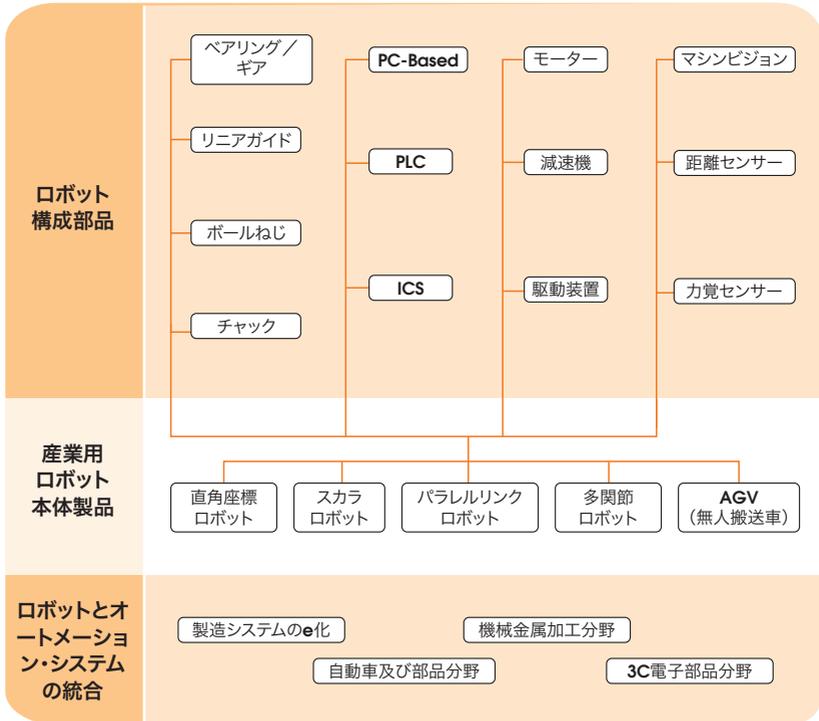
台湾の工作機械及び構成部品産業では完全な産業クラスターを有しています。それらは、材料、構成部品、完成機等の分野に分けられ、自動車、宇宙航空、金型製造、3C 製品等の分野に利用されています（図2）。これら企業は生産効率と柔軟性を兼ね備え、工作機械や構成部品に対する外国企業のニーズを十分満たすことができます。



出典：工業技術研究院産業テクノロジー国際戦略発展所。

図2 台湾工作機械産業のサプライチェーン

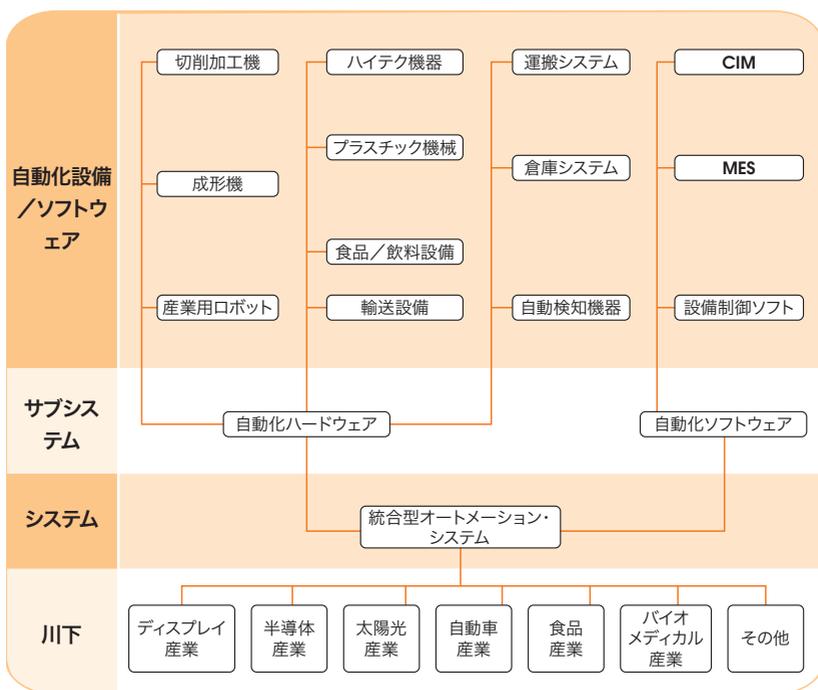
台湾の産業用ロボット関連メーカーにおいては、国際的な品質認証の取得が徐々に進み、自身の力量も大幅に向上して、中部に産業クラスターも形成されています。現在、産業用ロボットのサプライチェーンは、構成部品、ロボット本体、システムインテグレーションに分けられます（図3）。協働ロボットやIIoTの発展が進むなか、関連企業は工程のカスタマイズ・サービスを引き続き強化していくことでしょう。



出典：工業技術研究院産業テクノロジー国際戦略発展所。

図3 台湾の産業用ロボットのサプライチェーン

台湾のスマート・オートメーション・システムはハードウェアとソフトウェアに分けられ、ハードウェアは各種の機械設備、ソフトウェアはCIM、MES及び設備制御ソフトウェアが中心となっています（図4）。これらを統合すれば、ディスプレイ、半導体、太陽光、車両、食品、バイオメディカルその他の産業に応用可能です。ポストコロナの時代では、スマートオートメーションの重要性はますます高まり、オートメーション・システム・サービスの付加価値を高めることは、関連する台湾のメーカーにとって重要な開発の方向性になっています。



出典：工業技術研究院産業テクノロジー国際戦略発展所。

図4 台湾のスマート・オートメーションのサプライチェーン



### 三 | 産業クラスター |

台湾機械産業は中小企業が主体となっており、經濟部統計処の統計によると、現在台湾の機械産業には約 1.8 万社があり、関連分野の従業員は約 30 万人を超え、北、中、南ですでに関連産業クラスターが形成されているだけでなく、多くの重要なメーカーの設立にもつながりました。

#### 1. 北部クラスター

北部ではすでに新北市、桃園、新竹等において、精密センサー設備、電子及び半導体生産設備、オートメーション・コンポーネント及びシステム・インテグレーション、産業用コンピュータ、制御装置の産業クラスターが形成されています。

#### 2. 中部クラスター

台中及び彰化の一帯には、工作機械及び部品、ボールねじ、線形ガイド、産業機械（木工、紡織、プラスチック機械）、スマートロボット、オートメーションコンポーネント及びシステム・インテグレーションの産業クラスターがあります。「インダストリー 4.0」が世界の産業における重要な発展の潮流となった昨今、機械産業の止めようのない革命は、他の各産業にも活発な変革を生んでいます。

### 3. 南部クラスター

嘉義、台南、高雄など南部地域においては、工作機械と部品、産業機械（螺旋成形加工、プラスチック機械）、半導体設備、スマートロボット、制御装置、精密金型等の産業クラスターが発展しており、代表的なものでは、「東台精機」（Tongtai）、「精湛光学」（CCM）及び「鈦昇科技」（E&R Engineering Corp.）などが取り上げられます。

台湾精密機械産業クラスターは以下の図に整理されています。

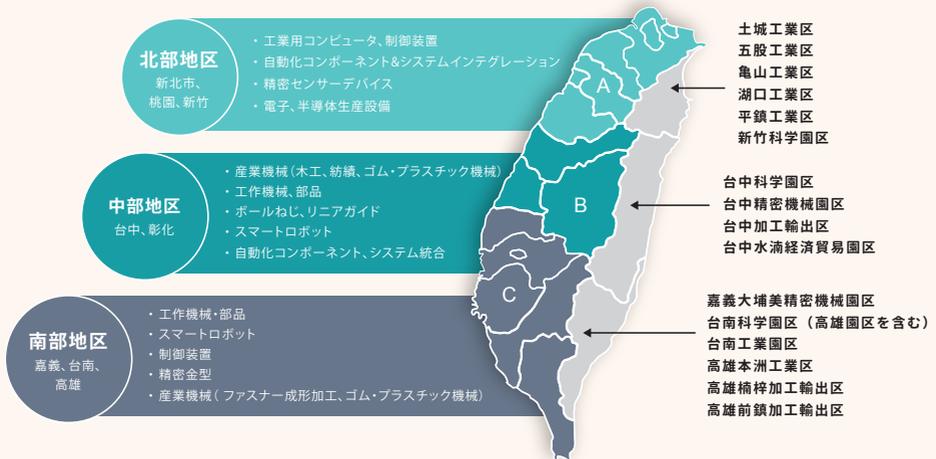


図5 台湾精密機械産業クラスター

# ビジネスチャンスの創出

## 一 | スマート製造のアプリケーションとソリューション・サービスの共同開発

台湾は半導体、情報通信、金属加工、カーコンポーネント、石油化学製品等において、いずれも完備された産業クラスターが形成されています。多様化した産業発展モデルが綿密な機械産業サプライチェーン及び政府が積極的に推進する産業パーク及び租税優遇措置と組み合わせることで、外資系企業の発展、刷新的なスマート製造アプリケーションやソリューションの検証に最適なエリアを提供します。特に米中貿易戦争、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大、地政学的混乱を背景に、各国はサプライチェーンのレジリエンスをより重視するようになり、製造業のデジタル化、スマート化の必要性は日増しに高まっています。台湾企業は、製造・開発力を有するだけでなく、デジタルシミュレーション・分析、製品ライフサイクルの管理、ビッグデータの分析、機械学習、AIといった分野でも十分な成果と経験を有しています。したがって、外国企業がポストコロナにおけるスマート製造の新潮流を把握し、スマートマシンのビジネスチャンスを広げるために、台湾企業は最高のパートナーとなるでしょう。

## 二 | 領域横断型サプライチェーンの連携による開発成果の実用化

米中貿易戦争と新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大を背景に、企業はサプライチェーンのレジリエンスをより重視するようになり、生産能力の強化や市場への再展開を加速させただけでなく、より積極的にデジタル化・スマート化を進めています。業界の今後の展開について見ると、機械設備とロボットの統合的活用はすでに広く普及しており、また

IoT、クラウドアプリケーション等の5G技術を活用することでスマート化効果のさらなる向上が見込まれることから、5G技術がこの後の競争力維持の重要な鍵となるのでしょうか。台湾の機械産業においては、産業クラスターやサプライチェーンが完成されており、そのことは新型コロナウイルス感染への対応で短期間のうちに「マスク国家隊」が立ち上がったことにも表れています。さらに、情報通信・半導体産業において台湾は発展の優位性と十分な開発力を持ち、顧客ニーズへの迅速な対応や柔軟な調整が可能であり、すでにアメリカ、日本、台湾の千を超える業者とスムーズに連結し、生産プロセス一貫化のための「スマート機械クラウド」を設置し、外国企業の領域横断型の研究開発や生産拠点の設置を助け、研究成果商品化の進行を大幅に加速しています。

### 三 | 持続成長のスマートマシン市場への布石 |

インダストリー 4.0 は世界的な潮流となっています。また、米中貿易戦争によってメーカーは新たに生産配置の変更を迫られ、これまで少数の生産拠点に集中していたサプライチェーンは、地域化、分散化が見られるようになってきています。新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大により業界はサプライチェーンのレジリエンスやリスク・マネジメントを重視するようになっただけでなく、「即時供給」から「供給確保」へと考え方を変えるきっかけになりました。各産業の新工場の建設や、既存の機械設備のスマート化による高度化需要も増大しました。また、教育、清掃、医療分野などのスマート化サービスロボット、設備、統合システムの需要も増大しています。今後、外国企業は、台湾への投資や関連企業との技術提携などを通じ、台湾のスマートマシン産業に参画してビジネスチャンスを広げ、ローカル／グローバルの市場を獲得することができるでしょう。

# 投資奨励措置

## 一 | 税制措置 |

法人税（営利事業所得税）の税率は20%であるほか、外国資本の台湾への投資、産業のイノベーション、産学連携を後押しするため、以下の税制優遇措置が適用されます（表1）：

表1 税制優遇措置

項目	優遇措置
技術や機器、設備の研究開発と導入	<ul style="list-style-type: none"><li>● 研究開発費の15%を上限として、当年度の法人税から控除でき、または支出額の10%を上限として、3年に分けて法人税から控除できる</li><li>● 海外から新たな生産技術や製品を導入する際、外国企業が所有する特許権、実用新案権、意匠権、商標権、その他特に許された権利を使用し、かつ外国企業に支払われるロイヤルティは、經濟部工業局によって承認された場合、所得税が免除される</li><li>● 台湾で製造されていない機器や設備を輸入する場合、輸入関税が免除される</li></ul>
従業員の株式報酬	<ul style="list-style-type: none"><li>● 会社の従業員が総額500万台湾元以内の株式報酬を取得し、株式を保有しながら会社で2年勤続した場合、譲渡する際は取得時の時価または譲渡時の時価のうち、いずれか低い方の価格で課税されることができる</li></ul>

項目	優遇措置
スマートマシン／5G／情報セキュリティ関連プロジェクト投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スマート機器：ビッグデータ、人工知能、IoT等を利用して自動スケジューリング、フレキシブル生産（FMS）、混流生産等の機能を実行する新しいハードウェア、ソフトウェア、技術または技術サービス</li> <li>● 5G：5G通信システムの新しいハードウェア、ソフトウェア、技術、技術サービスへの投資</li> <li>● 情報セキュリティ：企業による情報通信セキュリティ製品またはサービスの新しいハードウェア、ソフトウェア、技術または技術サービスに対する投資は控除の適用が受けられる</li> <li>● 当年度の投資額が合計100万台湾元以上、10億台湾元以下の場合、「投資額の5%を当年度の法人税（営利事業所得税）から控除」または「投資額の3%を3年間に分割して法人税（営利事業所得税）から控除」のいずれかの方法で控除できる。ただし、控除額は当年度の法人税（営利事業所得税）額の30%を上限とする</li> <li>● 適用期間は2024年12月31日までとする</li> </ul>
外国籍特定専門人材	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 条件を満たした外国籍特定専門人材は、給与所得のうち300万台湾元を超過した部分の半額を、所得税計算時に総所得から差し引くことができる</li> </ul>
各種産業パークへの入居	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 輸出加工区、サイエンスパーク、自由貿易港区等に入居した企業が、自社で使用する機器・設備・原料・燃料・資材・半製品を輸入した場合、輸入税、物品税、営業税が免除される</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 未処分利益で実質投資を行った場合、控除項目として法人税が免除される</li> </ul>

## 二 | 助成措置 |

### 1. グローバル研究開発イノベーションパートナープログラム

台湾の産業との補完性が見込まれる外資系企業が台湾でイノベーション研究開発活動を行うことを促進するために、台湾業者との共同研究開発、提携により、現在の台湾産業の現状を超える先進技術の開発とその産業化に必要な基幹性技術または統合型技術を開発し、台湾の産業に重要な影響を与えることが重要です。台湾経済部の承認を受けた事業に対し、最高研究開発費の50%を助成します。例えば、産業の技術開発及びサプライチェーン構築と発展の促進、研究開発の効率向上、研究開発活動と産業化の加速、積極的な国際市場開拓への協力等の台湾の産業発展に助力する事業です。

### 2. 先駆企業の研究開発の深化プログラム

台湾をハイテクノロジー開発センターとするために、ハイエンドな研究開発拠点を台湾に設置するよう世界中の先進技術を擁するグローバル企業を誘致し、有望技術及び国内のサプライチェーンとの提携に向けて確かな布石を打つためのプログラムです。研究、共創、発展の分業体制を構築することで、台湾の先駆企業の技術競争力を強化させ、新興産業クラスターの発展を加速させます。経済部の審査に合格した場合は、最高で開発経費総額の50%を助成します。

### 3. 産業の高度化・イノベーションプラットフォーム支援プログラム

産業の高付加価値化を促進し、ハイエンド製品応用市場への企業の進出を後押しして産業全体の付加価値率を向上させるため、経済部工業局が実施しているプログラムです。台湾に研究開発チームを擁する企業に対し、テーマ型開発事業には40%以上、企業の自主研究開発事業には最高40%の事業費を助成します。

# 台湾の代表的な企業

## 一 | 工作機械 |

### 1. 友嘉集団

台北に本社を置く友嘉集団は、傘下に工作機械、産業設備、グリーンエネルギーの3つの事業グループを擁しています。友嘉集団は52のブランドと79の生産拠点を持つ強みを生かし、近年積極的にスマート製造を推進しています。すでに新漢智能（NexAIoT）とインダストリー4.0スマートマシン生産ラインで提携し、スマート化加工システムを作り上げています。

### 2. 東台精機（Tongtai）

東台精機（Tongtai）は、切削工作機械の開発とアプリケーション研究のほか、超音波補助加工、レーダー加工及び金属3Dプリント等の先進的な製造工程分野にも手掛け、スマートマシンを利用したワンストップ・サービスを提供しています。

### 3. 永進機械

1954年に設立された永進機械は、台湾で珍しい敷地内に鑄造工場を有する工作機械設備メーカーであり、鑄造、機械加工、本体組立、検査、包装、出荷等のライン生産を包括的に導入できます。スマート化設備、オートメーション化、生産管理、ソフトウェア開発等の技術を統合し、多くの特許や充実した製品ラインを有する永進機械は、顧客にオートメーション化、カスタム化した全面的なサービスを提供することができます。



## 二 | 産業用ロボット |

### 1 上銀科技

上銀科技社（HIWIN）では、主に精密ボールねじ、線形駆動コンポーネント、産業用ロボット等の研究開発、製造に従事しています。産業の発展情勢に合わせるため、現在、上銀では徐々に個別の部品からシステム部品へとモデルチェンジをさせる開発を行っており、医療機器、太陽エネルギー、風力発電、半導体、情報通信、精密工作機械等の分野へ積極的に投資し、台湾産業のスマート製造への発展をサポートしています。

### 2. 台達電子（デルタ電子）

台達電子社は、コンバータ、サーボドライブシステム、パワーマネジメント、センサー、ロジック／モーション制御装置、産業用ロボット、グラフィックコントロールソフトウェア及び産業用情報管理システム等のスマートマシンの製造開発能力を有しています。

### 3. 達明機器人

2016年に設立された達明機器人は、世界最大のパソコンメーカー広達グループ傘下の企業の1つで、台湾で初めて協働ロボットを製造したメーカーです。現在、同社の協働ロボットの世界シェアは2位で、内蔵のカメラを持つ協働ロボット、スマート工場管理ソフトウェア及び応用ソリューションを提供しています。

## 三 | スマート・オートメーション |

### 1. 研華科技

研華科技社は、台湾の包括的なシステムインテグレーション及び設計サービスのリーディングメーカーであり、リモート I/O モジュール、産業用通信設備、オートメーションコントローラ及び I/O、ビルトインオートメーション産業用コンピュータ、産業用タブレットコンピューター、スマート工場クラウドインテグレーション、スマート設備オートメーション等の製品やソリューションを提供しています。

### 2. 盟立集団

1989年に設立された盟立集団は、自動化技術サービスを手がける台湾の大手企業です。生産工程の自動化及び製造工程の応用設備・製品——タッチパネル伝送設備統合システム、クリーンルームと製造工程の間の運搬／輸送及び保管等の物流設備、自動保管・輸送システム、ロボット利用、コンピューターネットワーク設備のサービス、産業用制御装置などを提供しています。

# 外資系企業の成功事例

## 一 | 生産及び技術面

ドイツのベッコフオートメーション（Beckhoff）は銚宝工業とボトルブロー成形機の生産ラインのシステムスマート化ソリューション提携意向書を締結し、双方の情報、通信、伝送等の分野における提携を強化しました。アメリカの Energid Technologies は台湾新漢と7軸産業用ロボットを共同開発し、その後、新漢の子会社が発展を継続し、販売市場を開拓しています。日本の安川電機は台湾で技術サービスセンター及びロボット展示センターに投資しています。オムロン（Omron）は達明机器人の株を約10%引き受け、さらに戦略的提携におけるパートナー関係を強化しました。スイスの Tornos グループは5億台湾元を投じて台中に工場を建設し、一部の旋盤の生産能力を台湾に移転することを決定しました。



## 二 | 異業種提携 |

アメリカの計測装置大手メーカーであるキーサイト・テクノロジー (Keysight Technologies) は、台湾の半導体メーカーであるメディアテック (聯發科技) と共に 2020 年 1 月、将来的に 5G 市場のビジネスにおいて技術提携を行うことを発表しました。メディアテック (聯發科技) は、キーサイト・テクノロジー (Keysight Technologies) の 5G 模擬装置ソリューション及びミリ波技術を通じて、各種イノベーション開発需要に応じて適切なネットワーク連結形態を構築することが可能であり、関連する開発・テスト能力を効果的に向上させて 5G アプリケーションのビジネスチャンスを獲得することが期待されます。このほか、アメリカの工業自動化の大手企業、ロックウェル (Rockwell Automation) は、近年台湾の特殊後発医薬品企業の製造プロセススマート化ソリューション導入に協力しました。今後これをモデルケースとして国内の各産業に、伝統型製造プロセスのグレードアップ、技術システム予測保守、機器連結、工場の省エネ等、スマート工場のカスタマイズサービスを提供します。

### 三 | 実証試験エリアの提携 |

「スマート機械クラウド科学技術発展計画」により、アメリカのオートデスク（Autodesk）、マイクロソフト、日本の三菱電機と台湾の研華、科盛等の有名企業が結び付き、台湾の機械業者のデジタル・トランスフォーメーションを共同で促進しています。フランスのダッソー・システムズ（Dassault Systèmes）はすでに台湾に研究開発センターを設立し、友嘉グループと提携してスマート工場のビジネスチャンスを獲得し、工業技術研究院と協力してスマート製造技術検証エリアを設置しました。また、ダッソー・システムズは桃園と台中市政府と提携覚書を締結し、協働してIoT、スタートアップエコシステム、イノベーション研究開発ハブなどのプロジェクトに取り組みます。

### 四 | 人材育成面での提携 |

ドイツのロバート・ボッシュ（Bosch）は成功大学と提携して、成功大学にスマート製造イノベーションセンターを設立し、インダストリー4.0の人材を育成しています。アメリカのロックウェル社は台中の逢甲大学と産学提携の覚書を締結し、スマート機器の導入やスマート機械の専門講座の開設に加え、研修教室としての「企業ネットワーク応用実験室」を特設し、「スマート製造ラボラトリー」を展示エリアとするなど、台湾でのスマート機械のミドルおよびトップ人材の育成を支援します。



出版機関：經濟部投資業務処

Add : 台北市中正区館前路 71 号 8F

Tel : +886-2-2389-2111

著作権があり、転載・複製することを禁ず



### 經濟部投資業務處

Add : 台北市中正區館前路71號8F

Tel : +886-2-2389-2111

Fax : +886-2-2382-0497

Website : <https://investtaiwan.nat.gov.tw>

E-mail : [dois@moea.gov.tw](mailto:dois@moea.gov.tw)

### 台灣投資事務所

Add : 台北市中正區襄陽路1號8F

Tel : +886-2-2311-2031

Fax : +886-2-2311-1949

Website : <https://investtaiwan.nat.gov.tw>

E-mail : [service@invest.org.tw](mailto:service@invest.org.tw)